

# 株式会社光和電機（神奈川県川崎市）

～大企業とのマッチングにより新たな製品を生む～

## 1. 配線屋さんから電子回路検査機メーカーへ

株式会社光和電機の歴史は、昭和51年、町工場の片隅で「プリント基板」のハンダ付けの下請け仕事を始めたところから始まる。その後、エレクトロニクスの活況で仕事が増加し、昭和54年に株式会社光和電機が設立された。

平成に入り、電子業界の競争激化を背景に取引先であった大企業からの仕事が急激に減少したことから、当時の社長は、電子回路の検査のための「ファンクションテスター」に着目し、その製作を開始した。マイコンを含む電子回路の用途は、給湯器、便器、建具のブラインドなど多岐にわたるため、同社は、電子機器分野だけでなく様々な分野でファンクションテスターの顧客の開拓に成功し、部品製作から検査機全体の生産、その源泉となるシステム設計から加工、組立、検査そしてアフターケアまで、顧客のニーズに合わせた社内一貫生産体制で対応している。

客先専用設計としてカスタムメイドに特化し、経験と実績で裏付けられた技術を最良の設備として提案する“提案型技術集団”として、積極的なモノづくりを行っている企業である。

## 2. 技術との出会い

現社長は、就任後、経営者としてあらゆることを吸収しようと積極的に活動する中で、川崎市が主催する知的財産交流会に参加した。

知的財産交流会は、「大企業と中小企業との交流を促進し、知的財産をとおして新たなビジネス関係の構築や、中小企業の知財経営の意識啓発を図っていく」、というもので、川崎市の大企業の研究機関と技術力のある中小企業がともに集積するという川崎市の特性を活かした事業である。

同社は、初めて参加した交流会で、求めていた技術は見つからなかったものの、大企業側から紹介された思わぬ技術に出会った。その技術は、「拡大視認装置」及び「拡大確認装置」に関するもので、基板の検査時、不良箇所があると、ディスプレイに拡大表示して不良箇所を光点で指示し、基板が動いても光点を不良箇所に追従させるという技術である。この技術を検査機器に適用することで検査員の作業の効率化と疲労の軽減が図れ、正確な検査が可能になることから、当時交流会に参加した同社の技術担当者は、まさに「今の自社製品に使える」技術であると確信したという。

## 3. 知財コーディネータ支援

大企業から「拡大視認装置」及び「拡大確認装置」の技術を導入するにあたり、企業文化や認識の違いが大きく、契約交渉は必ずしもスムーズには進まなかった。しかし、川崎市の「知財コーディネータ」によるきめ細かなサポートの結果、成約に至ったという。こ

の成果は、川崎市が実施した「知的財産交流会」事業の成果第1号となり、まもなく製品化される予定である。

数多くの国内電機メーカーを取引先に持つ同社は、今後、製品のラインナップを充実させることで、今まで以上に付加価値の高い顧客ニーズにマッチした製品販売を展開したいと考えている。

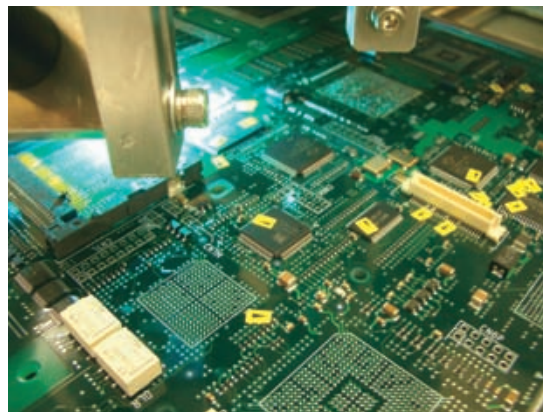
### ●保有権利に基づく製品例



デモ機



第1号製品



基板拡大図

### ●会社概要

名称及び代表者名	株式会社光和電機 代表取締役 黒川 純
本社所在地	神奈川県川崎市麻生区栗木2-6-23
創業	1976（昭和51）年
資本金	1,000万円
従業員数	48名
主要製品	電子回路部品検査機
電話	044-981-2151
URL	<a href="http://www.kowadenki.co.jp">http://www.kowadenki.co.jp</a>